

敷島小学校 学校関係者評価書

令和2年 2月20日(木)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年 2月19日(水) 午後3時00～4時30分

会場：敷島小学校 校長室

参加者

(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之，松土 仁郎，辻 英夫，平賀 文子，小池 宏

P T A代表：小林 梓 (P T A会長) 森田 奈穂 (P T A副会長)

(学校側)

校長 新海 淳

教頭 今村 洋仁

教務主任 佐藤 栄志

I 学校側から提案された内容

学校側から、12月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析した「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について(達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

II 協議された主な内容

学校が取りまとめた自己評価書をもとに、本校の教育活動や学校運営の状況について、課題点が正しく把握されているか、改善策が適切であるか等について協議した。また、児童の様子、今日的な教育課題等について意見交換を行った。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・本校の教職員の自己評価の結果から見ると、今年度の教育活動及び学校運営(学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等)について、教職員が学校経営方針を理解し、学校長のリーダーシップの下、年間を通して日常の教育実践や与えられた校務分掌にしっかりと取り組んでいることがうかがえる。すべての教職員が自覚と責任をもって職務に専念したととらえている。
- ・「学校は楽しいですか」という児童へのアンケート及び「学校は楽しいところだと思う」という保護者へのアンケートに対して、肯定的な回答が非常に多く、敷島小学校の教育活動が全般にわたって児童や保護者によく理解されている。このことから、敷島小学校の学校評価に係る総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。

Ⅱ 特 徴

- ・本校では学校長の経営方針や教育理念が全職員に共有され、教育活動が実践されていて、学校運営の状況について概ね良好である。今後も教職員一人ひとりがより主体的に学校運営に参画し、よりよい学校づくりを目指して行ってほしい。
- ・行事や授業参観を中心に年間を通して何度も訪問させてもらったが、どの学年も子どもたちが落ち着いて生き生きと授業に取り組む姿が見られ、とてもうれしく思った。
- ・子どもたちの学力向上に向けて、家庭と連携して基礎基本の習得、学習意欲の喚起、学習指導について力を入れて取り組んでいることがわかる。今後も子どもたちがわかる楽しさを実感できるような授業の工夫と家庭学習の充実を推進して行ってほしい。
- ・学校と保護者との関わりについて、アンケート結果より高評価が見られ、子ども一人ひとりが学校や家庭で大切に育てられていることがわかる。
- ・教職員が子どもと向き合う時間を確保するために、業務改善に取り組み、会議の精選、校務分掌の複数担当制など学校が努力している様子が見られる。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・学校長のリーダーシップの下、チーム学校として外部機関とも連携・協働しながら教員と多様な専門性を持つ職員が一つのチームとなって、それぞれの専門性を生かして教育効果をさらに高めて行ってほしい。
- ・学校教育目標に関連する項目で「学校の楽しさ」を問う設問があり、全体的に高評価であり、子どもたちが生き生きと生活できていることがとてもよい。しかしながら、否定的な回答をしている児童も若干おり、自己評価書にあるように原因究明と丁寧で組織的な対応を推進して行ってほしい。
- ・教育には時代の変化に関係なく普遍的に変わらないものと時代の変化に対応して変えていかなければならないものがあり、それを見極めながら教育活動にあたってほしい。
- ・本校の特色である音楽活動に年間を通して力を入れており、これからも子どもたちが生き生きと合唱活動や器楽演奏に取り組めるように指導して行ってほしい。
- ・今は地域での子どもたちの縦のつながりが希薄になっているが、本校の異年齢の子どもたちの交流による縦割り集団活動を今後も継続して取り組んで行ってほしい。
- ・各家庭で子どもたちに必要な生活習慣を身につけさせることは不可欠であり、様々な活動を通して啓発していくことが必要である
- ・学校での取組が家庭にも理解されるように、今後も必要に応じてその都度、様々な手段を通して、情報発信をしていくことが必要である。
- ・普段から家庭との連携を密にし、子どもの家庭での様子や学校での様子など絶えず情報交換を行い、意思の疎通と教育方針の共有を図ることが大切である。
- ・子どもたちの学習や生活上の問題を解決するために個別相談や家庭訪問等を行い、問題の早期発見・早期対応、早期解決を図ること、そして専門家や教育委員会等の関係機関と連携し対応していくことが大切である。
- ・全国でいじめや児童虐待が問題になっているが、学校でもアンテナを高くし、子どもたちの微妙な変化を見落とすことなく、日々子どもたちに接して行ってほしい。
- ・地域の人材や教育資源の活用、PTAの自主的活動の推進など、学校・家庭・地域が一体となって、PDCAサイクルにしたがい取り組んでいただきたい。
- ・家庭や地域との連携をさらに推進するために、お便りや定期的に更新されたホームページを活用しながら、さらに広報活動を行って行ってほしい。

※特記事項 なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切 道之